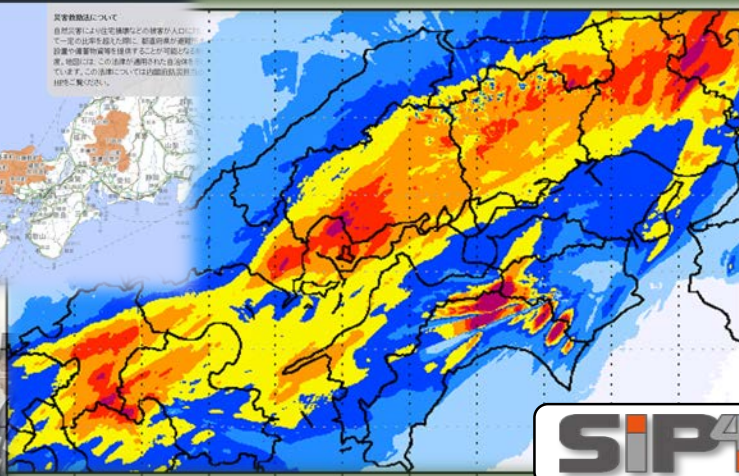


第3回 官民合同会議 阪神・淡路から災害情報の 共有・利活用はどう変わったか？

～西日本豪雨、北海道胆振東部地震の対応をふまえて～



■ 災害情報の共有・利活用はどう変わったのか？

阪神・淡路大震災から、24年。あの日、我々は、情報共有の大切さを痛感しました。以来、災害情報の共有・利活用はどう変わったのでしょうか？

■ 開催主旨

国立研究開発法人 防災科学技術研究所では、実際の災害対応を行政機関と協働しながら、長年にわたり災害情報の共有・利活用について研究を進めて参りました。

阪神・淡路大震災から24年。第3回 官民合同会議では、あの日から災害情報はどのように変わったのか。何ができるようになり、何が未だ課題なのか。次の大災害への備えとして、どのような災害情報の利活用が求められるのか。平成30年7月豪雨、そして北海道胆振東部地震におけるSIP4D/ISUTの活動、みちのくALERT2018等の自衛隊との連携等を振り返りながら、適切な災害情報の流通について、議論を深めて参りたいと思います。

皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

■ 日時、場所

日時： 2019年1月17日(木) 13:00～17:00 (受付開始12:30)

場所： ベルサール秋葉原 (JR秋葉原駅・電気街口より徒歩3分)

■ 参加予約

定員200名(先着順)以下のサイトから予約ください。

<https://risk.ecom-plat.jp/hp/190117sympo>

■ 基調講演(第1部)

元 神戸市広報課長 櫻井 誠一 様

■ 徹底討論!(第3部)

広島県、愛媛県、北海道など、災害に見舞われた自治体からキーパーソンをお招きします。(裏面参照)

※ 諸事情により、登壇者は予告なく変更する場合があります。

※ プログラムは裏面に記載。

● 問合せ先

国立研究開発法人 防災科学技術研究所
社会防災システム研究部門

TEL: 029-863-7553 FAX: 029-863-7541



国立研究開発法人
防災科学技術研究所

第3回 官民合同会議

阪神・淡路から災害情報の共有・利活用はどう変わったか？ ～ 西日本豪雨、北海道胆振東部地震の対応をふまえて ～

議 事 次 第

項目	内 容
【名称】	阪神・淡路から災害情報の共有・利活用はどう変わったか？ ～ 西日本豪雨、北海道胆振東部地震の対応をふまえて～
【主催】	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 社会防災システム研究部門 「自然災害情報の利活用に基づく災害対策に関する研究」プロジェクト
【日時】	2019年1月17日(木) 13:00～17:00 (受付開始12:30)
【会場】	ベルサール秋葉原 (JR秋葉原駅・電気街口より徒歩3分) (定員200名)
【対象】	災害情報システムの導入をご検討の自治体 (都道府県、市町村) の皆様 災害情報システムに関するビジネスを展開されている民間企業の皆様 災害時の情報共有・利活用にご関心のある皆様
【概要】	13:00 開始 主催者挨拶 (理事 土橋 久) 13:10～14:00 第1部【基調講演】阪神・淡路大震災を振り返る ～ あの日、できたこと、できなかったこと～ (元 神戸市広報課長 櫻井 誠一 様) 14:00～14:45 第2部 災害時の情報共有の現状 平成30年7月豪雨、北海道胆振東部地震でのSIP4D/ISUTの活動について (主幹研究員 花島誠人) 広域災害情報連携の取組 ～南西レスキュー、みちのくALERTの紹介～ (主幹研究員 伊勢 正) 14:45～15:05 休憩 20分 (ティーブレイク) 15:05～16:50 第3部 官民合同会議 徹底討論！ 阪神・淡路から、何ができるようになり、何が未だ課題なのか！？ (パネリスト) 広島県防災担当監・山本雅治様 愛媛県防災危機管理課専門員・福岡正志様 北海道危機対策課長・加納孝之様 宮崎県危機管理統括監・田中保通様 NECスマートインフラ事業部シニアマネージャー・平井清宗様 日本工営(株)中央研究所所長・小野寺勝様 (ファシリテータ) 防災科研 主幹研究員・伊勢 正 16:50～16:55 総括 (総合防災情報センター長 白田裕一郎) 16:55～17:00 閉会挨拶 (レジリエント防災・減災研究推進センター長 藤原広行)

注) プログラムは予告なく変更される場合があります。